

## 福島工場と日本製乳が「とうほく SDGs アワード」で審査員特別賞を受賞しました

森永乳業株式会社福島工場と、日本製乳株式会社は、「一般社団法人 SDGs とうほく」及び「東北大学大学院経済学研究科」主催の「第3回とうほく SDGs アワード(※)」にて、「地域社会との共生と従業員のやりがいの両立」(福島工場)と、「おしどりミルクケーキ包材のプラスチック使用量削減」(日本製乳)の取り組みが評価され、審査員特別賞を受賞しました。

福島工場はフードバンクへの商品提供や小中学生の工場見学の受入等、多面的なサステナビリティ活動を通して地域コミュニティとの共生と社員のやりがいを両立させている点が高く評価され、昨年の「奨励賞」に続き、2年連続の受賞となりました。

日本製乳(株)では、プラスチック使用量を削減するとともに、包材の見直しを契機に自然環境の保全にも注力している点が高く評価されました。



とうほく SDGs アワード受賞式の様子

森永乳業グループは、コーポレートスローガン「かがやく“笑顔”のために」のもと、サステナビリティ経営の実現を目指し、「『おいしいと健康』をお届けすることにより、豊かな“日常・社会・環境”に貢献し、すべての人のかがやく笑顔を創造し続けます」というサステナビリティビジョンを掲げています。このサステナビリティビジョンの実現に向けた活動を推し進めるべく、2022年に「サステナビリティ中長期計画2030」を策定しました。これからも地域コミュニティとの共生を目指し、ウェルビーイング向上に貢献したいと考えています。

(※)東北6県での企業・団体等の優れたSDGs関連の取り組みを顕彰し、企業・市民・行政の各セクター間での学びを深め、地域課題の解決促進を目指したアワード。